

8月の植物

キカラスウリ（ウリ科）

学名: *Trichosanthes kirilowii* Maxim. var. *japonica* (Miq.) Kitam.

8月1日朝6時頃、散歩の途中でキカラスウリの花に遭遇した。神崎市脊振町、白木川の側である。カラスウリ属の花は夕方から夜にかけて咲く1日花だが、しぼんで落ちる時間には違いがある。早朝5時頃にしぼんで落ちるカラスウリに比べて、キカラスウリは午前10時頃まで開いているものがある。今日は夫に同行してラッキーだった。佐賀県にある同属は4種類、カラスウリ、キカラスウリ、モミジカラスウリ、オオカラスウリ。一番身近なのが紅い実のカラスウリ、その次がキカラスウリだろうか、名前の通り黄色い実をつける。葉の切れ込みが深いモミジカラスウリは脊振山など標高の高いところ、大きな葉、大きな花のオオカラスウリは、馬渡島など玄界灘周辺に見られる。どれも実は良く目立つが、花は夜咲きの為、見たことがある人は意外と少ないかもしれない。けれど、夜の闇に浮かび上がるような、白いレース状の不思議な花は、一度見ると忘れられない。いにしえのヨーロッパでもそうだったのだろう。属名の *Trichosanthes* は *t, richos* 髪(毛), *anthes* 花 糸状の毛がある花という意味だそうだ。

この花に惹かれて、娘は中学生の時、自由研究のテーマに選んだことがある。身近なカラスウリとキカラスウリに絞り、花の咲き始めから、しぼんで落花するまで、時間を追って見に行き、写真を撮ったり気づいたことをメモしたり…カラスウリとキカラスウリには花や蕾、葉など色々な違いがあり、一緒に観察した私自身にも気づきが多くあった。中でも驚いたのは、2種とも夜中に甘くいい香りがすることだった。実際に、花粉媒介者であろうか、キカラスウリの花に蛾がやってきていた。ワクワクしながら二人で観察したことは、娘との楽しい夏の思い出だ。

因みに、佐賀の植物 No.49 には、「白いレースドレスの一夜花」という、カラスウリの花を題材にしたユニークなお話が掲載されている。作者は、友人の柳川恵子さん。見事な花のスケッチも添えられているので、興味のある方は、ぜひご一読を。



参考文献 佐賀県植物目録(佐賀植物友の会 1981)

私の植物観察(10) 井手義信 佐賀の植物 No.61 (佐賀植物友の会 2025)